2023.6
Vol. 31
一般社団法人 二科会写真部 広報誌
NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS

REAL

二科会写真部広報誌『REAL』復刊に寄せて

「誌面を通じて二科会の動向をお伝えしていきたい」

片岡順一（かたおか・じゅんいち）

1931年、兵庫県生まれ。神奈川二科展、神奈川県美術展などで多数受賞。90年、二科会写真部会友推挙。98年、会員推挙。2005年、二科会写真部監事。09年、二科会写真部事務局長。2022年、二科会写真部代表理事就任。二科会写真部会員、日本写真作家協会名誉会員、日本写真協会会員。

二科会写真部の広報誌として2004年7月に『REAL』を創刊しました。二科会の出来事を年2～3回にわたって会員・会友・支部員に伝えることが目的でした。最新ニュースや支部の活動、エッセイなどを盛り込み、二科にかかわる人にとってひとつの情報源としての役割を果たすことができました。

2018年10月発行の30号をもって休刊をしていましたが、皆さまから二科とのつながりを感じさせるツールとして復刊してほしい、広報誌を通じて全国の仲間がいまどんなことをしているのかを知りたいというお声が多く寄せられてきました。70周年を迎え、80周年に向けて新たな一歩を踏みだした今だからこそ、『REAL』を復刊させようという機運が高まり、4年ぶりに31号を刊行することになりました。

『REAL』休刊後は、新型コロナという未曾有の事態に見舞われ、皆さまにとってかけがえのない写真活動も制限され、二科を通じて支部員間や全国の仲間との交流などもできない期間が続きました。ここへきて制限も解除され、本年9月に行われる二科展では、以前のような盛り上がりが期待されます。誌面での会員・会友・支部員の活動報告を通じて、刺激を与え、より活発な撮影を喚起できればと考えています。

二科会写真部は、1953年に創立会員である林忠彦先生、秋山庄太郎先生、大竹省二先生、早田雄二先生によって作られ、全国の写真愛好家を巻き込み、日本でも有数の美術団体として成長してきました。現在では国立新美術館を舞台に作品を発表しています。その根底には脈々と続く、二科らしい作品づくりを創立会員の先生方から直接教えを受けた者が伝承しているだけでなく、当時を知らない方たちも加わり、斬新な作風も見られる、魅力的な展覧会だと思っています。

私たちは、そんな二科の良さを伝えていくとともに創立80周年に向けて、本部としてもさまざまなアイデアを実行していく所存です。そのコミュニケーションツールのひとつとして復刊する『REAL』が皆様との架け橋になること願っています。ぜひ一緒に作り上げていけたら幸いです。

Topic

第71回二科会写真部展 二次審査終了 入賞・入選作品が決定

6月15日（木）、東京・国立新美術館の審査室において第71回二科会写真部展の二次審査を行い、県別番号偶数の支部各1名および理事長・常任理事・理事を含む全36名の会員が出席。二科賞、全国知事会賞、日本カメラ財団賞、さらには協賛会社賞などを選出しました。結果は、6月下旬に応募者全員に文書で通知していますが、7月15日が公式発表で二科会写真部のホームページにも掲載します。

審査の経緯ですが、3月1日（水）～10日（金）の間に作品を受け付け、今年は1797名から10153点の作品が寄せられました。一次審査は、4月12日（水）から14日（金）まで、県別番号奇数支部各1名および理事長・常任理事・理事を含む全36名の会員が行い、長時間にわたる審査の結果、764名の入選内定者を選出しました。

審査にあたった理事の榊原俊寿会員は、「近年は、良いと思った作品に対して○の札を上げる方法で選出していくようになりました。審査中の雰囲気は、和やかではありますが、声を発して意思表示をするのではなく、札を上げていくので賑やかということはありません。それでもインパクトのある作品や、ハッとさせられるような写真が出てくると思わず、『おー！』『いいね～』なんて言葉が出てしまうものですね。

この札を上げるシステムは実に民主的な方法で近年、公募展などの審査で公平性が求められるなか最適なやり方ではないでしょうか。多くの人が支持するものでないと評価されないという意味では、誰もが納得できると思います」

と審査の方法について教えてくれました。また、審査中に気付いたこととして、「1～2点の応募の方は、なかなか残らなかった印象です。もちろん少ない枚数でも力があるものは残っていますが、平均して4～5点を応募されてくると、その人の個性も見えてきますし、被写体のバリエーションも増えて、見応えもあります。来年応募する際は、応募枚数も考慮してみると結果が変わるかもしれません」

と教えてくれました。二次審査も一次審査と同様に良い作品に「○」を上げていきますが、賞を決める審査だけに、数多くの○が上がらないと賞候補としては残りません。この段階だと緊迫感も出てきますが、伝統ある二科賞の選出となると、選ぶほうも真剣。そんな心境を理事の川口和子会員に聞きました。

「会友になる前は、私もなんとか入選しようと必死に応募してきましたので、皆さんの気持ちはよくわかります。それだけに一次審査は四ツ切サイズですが、目を凝らしてじっくり見ます。1万点を超える作品が寄せられるので1点あたりの審査時間は短くなります。だからこそ写真から訴えるものがないと、なかなか評価されません。またシャッターチャンスも重要で、目の前の光景を漠然と撮るのではなく、なにか心を引きつける瞬間をとらえていると多くの審査員が○を上げることになります。複数枚応募される方は、メリハリを考えて勝負作をきっちりと入れ込むことがポイントかもしれませんね」

応募する側から審査する立場になったからこそ、こうして思いを込めて、また基準を明確に持って選んでいきます。9月の展示の際、審査員の気持ちになって、どこを評価するのか見ていくと、二科展をより深く楽しめるかもしれません。

応募点数（応募人数：1,797名）

A 単写真部門	B 組写真部門	C アートフォト部門
7,463点	783組	341点

▼

一　次　審　査

▼

入選内定者数（合計：764名・764作品）

A 単写真部門	B 組写真部門	C アートフォト部門
604名・604点	122名・122組	38名・38点

▼

二　次　審　査

▼

7月15日に正式発表

- 二科賞（賞状・賞金 50万円）……1名
- 全国知事会賞（賞状・賞品）……1名
- 日本カメラ財団賞（賞状・賞品）……1名
- 協賛会社賞（賞状・協賛会社賞）……多数
- 奨励賞（賞状・『第71回展作品集』1冊）……若干名

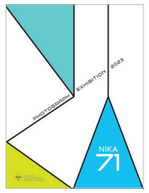
今年は 東京 六本木へ 行こう！

第71回二科会写真部展を 9月6日～18日まで国立新美術館で開催

今年で71回目となる二科会写真部展を東京・六本木にある国立新美術館で9月6日（水）～18日（月）まで開催します。コロナ禍による制限もなくなった中で行う展覧会とあって、全国各地の方から「今年はぜひ行きたい！」という声が寄せられています。二次審査も終わり、展示に向けての準備が始まっていますが、美術館の壁が素晴しい作品で埋め尽くされます。ここ数年は東京へ出てこられなかったという状況でしたから、ぜひ久々に二科の展示を味わってください。

残念ながら、コロナ前に好評だったギャラリートークは行いませんが、作品集には審査員の講評（入賞作品のみ）が収録される予定ですから、それと合わせてご覧いただくのも楽しみ方のひとつです。

そして多くの方にとって関心のある表彰式と懇親会は、東京プリンスホテルにおいて以前と同じような形で行う予定です。もちろん状況によって変更の可能性もありますが、多くの人が見つめる中での表彰式や、全国の仲間と会える懇親会は、二科の魅力でもあります。



◆ **第71回二科会写真部展作品集刊行**

コロナ禍で展覧会が中止となっても、刊行が続けられてきた作品集ですが、今年は表紙をリニューアルする予定。9月の展覧会会場でも購入できます。

頒布価格：15,000円（予定）

「国立新美術館で二科の写真を見たい」

金築 哲さん（島根支部）

二科は10年ほど前に支部でやってみないかと誘われて、それから本展にも応募しましたが、初入選は3回目でした。これまでに何度か入選することができたのですが、2回ほど東京の表彰式に出席しました。やはり国立新美術館に展示されると作品集で見ているより迫力もあるし、勉強になります。さらには情報交換もできるので参考になります。いい作品を見つけたときは、作者の方を探り当てて、お話を聞いたこともありました。ここ数年はコロナでなかなか行くことができませんでしたが、久しぶりに会場で二科の写真を見たいと思っています。

第72回展からヤング部門新設

二科会写真部に新しい風が吹く！

UNDER 25

学生部門の廃止から10年。応募者の高齢化が進むなか、若年層の作品も二科に取り入れることをめざし、来年度の第72回展から「ヤング部門」が新設されることになりました。第70回展では30歳代までの応募者数が全体の2パーセントでしたが、対象は25歳以下とし、より幅広い年代層からの応募が期待されます。「完成度よりも原石を見出したい」という方向性の審査となり次世代の二科を見据えたものになりそうです。お子さんやお孫さんと一緒に国立新美術館に飾られるかも……今から作品づくりを始めましょう！

一次審査の様子。長時間に渡る審査だけに大変ですが、見応えのある作品が出てくると疲れも吹っ飛ぶのだとか。

写真集収録作品

森井禎紹（もりい・ていじ）

1941年生まれ。兵庫県三田市出身。64年頃より趣味で写真を始める。写真コンテスト、カメラ雑誌月例コンテストに応募、入選回数362回を数える。1990年プロに転向、ライフワークとして日本全国の祭りを取材。2016年より二科会写真部理事長に就任。日本写真家協会会員、二科会写真部会員。兵庫県写真作家協会最高顧問など。

森井禎紹写真集
『我が昭和の写跡』

［仕様］
A4・上製本
モノクロ184ページ
［定価］
5,000円（税込）

問合せ：森井禎紹写真事務所
TEL. 079-568-0622

Interview

森井禎紹会員が写真集『我が昭和の写跡』を刊行

「倉庫の奥にあったモノクロフィルムが昭和の勢いのある時代を蘇らせてくれた」

二科会写真部の皆さんにとっても２０２０年から続いたコロナ禍は、写真活動を制限され、楽しみを奪われた辛さがあったことと思います。私も、写真の仕事が一切ストップした中で、ライフワークである祭りもないし、途方に暮れた時期もありました。

そんな中、三田市の80歳以上の方の写真を撮る「メモリーズ オブ ポートレート」という企画で１００名以上の人を撮らせてもらうなど、なんとか写真に触れる機会を得ていました。私の持論で、写真を撮っていないと、腕も感性も鈍ると思っているので、本当によかったです。

それでも時間があったので、倉庫にある写真展で使ったパネルを整理しようと、木製パネルは焼却処分し、だいぶすっきりしたのですが、その奥にカラーフィルムが見つかりました。箱から出して見たら、ほとんどにカビが付着していて、こちらも処分しました。というのも、良いカットは切り抜いているので、ほぼＮＧカットだったから心置きなく捨てられたのです。

さらにその隅にモノクロフィルムが４０４１本ありました。５ミリほどの埃を被っていたので、これもダメだろうと思ったのですが、それでも数本、どんな写真を撮っていたのかと見てみたら、こちらはカビもなく、しっかりした状態でした。ベタ焼きも一緒に保存してありました。

昨年亡くなられた、田沼武能先生から「写真は記録だ」と言われたことを思い出し、そこから５００枚に絞り、さらには３００枚、２００枚と選んでいき、データ化して２Ｌにプリント。被写体別や年代別に並べたら「写真集になりそう」という思いに駆られたのです。

写真にひたむきな頃を思い出した

フィルムが残っていたのは、昭和39年から50年代で、当時の私は、月例コンテストへの応募に必死でした。被写体は９割９分がスナップで、とにかく多くの枚数を応募するために、近所を被写体にしたり、正月やゴールデンウィーク、お盆休みには東北や信州、山陰へ出かけて撮りまくっていました。写真を見ると、コンテストを勝ち抜こうというエネルギーにあふれていたように思います。それに興味深いのは、今ではとても撮れないだろうシーンばかり。子どもさんが裸で遊んでいるところや、混浴のお風呂に入っている姿などもありました。

冷静になって振り返ると、時間が経ったことによって、どの写真も記録としての価値を増したということです。田沼先生がおっしゃった言葉の意味がよく理解できます。結婚ブームの頃、大阪駅のホームで紙吹雪が舞うシーンやタイから象がやってきたときの写真もありました。もちろん現場にいたから撮れるのが写真ですが、もう記憶にはありません。それが写真を見たことによって鮮明に思い出すことができ、懐かしい思いに感動するのです。

プロとして活動するようになり、写真は常に前向きで、ライフワークを持ち、売れる写真を意識してきました。だから振り返るなんてことはまったく考えなかったのです。でも、かつて私が撮った写真を見て、写真を始めた頃の新鮮な気持ち、どんな被写体でも撮ることが楽しかった時期、あらためて写真というのは楽しいものなんだということを考える機会となりました。二科の皆さんも、いま二科展で入選することに必死かもしれませんが、ちょっと昔の写真を振り返ると、当時を思い出し、また違った視点で作品づくりができるかもしれません。それは決して後ろ向きな行為ではないと思うのです。

今回は、私の個人的な思いをまとめた自費出版の写真集として写真選びも、レイアウトもすべて自分でやって刊行しますが、皆さんが見ても、昭和の中期から後期にかけて元気だった日本の懐かしい風景が見られる一冊になっていると思います。

Interview

香川支部長の森川輝男会友が写真集を刊行

「讃岐路の自然と歴史、文化を全国に発信する」

２０２３年春、写真集『讃岐路 瀬戸内の太陽に恵まれて』を刊行しました。これまでに香川の風物を記録してきたのですが、10数年前に写真集にしたいと構想を練り始め、香川県全体の写真で構成しようという方向性は5年ほど前に定めて、作品をまとめてきました。

「香川の自然、歴史、そして文化を残したい」をテーマとしました。私の住む国分寺町からは西も東も高速道路を使わずに1時間30分ほどで県内を巡ることができます。写真集は、「瀬戸内の香り」「四季の彩り」「信仰の道」「瀬戸の都」「祭りごと」という5章に分けて展開していますが、アクセスの良さもあって、バラエティに富んだ作品で綴ることができたと思っています。

写真集にすることの意義は、現在の香川の姿を後世に残すことだと思っています。写真は記録する役割があります。今回収録されている風景がいつまでも同じ形で残されるとは限りませんし、祭りだってどうなるかはわかりません。それなので何十年か経ったあとにこの写真集を手にした人が、香川はこんな姿だったんだと振り返ってもらえたら、これ以上の喜びはありません。

この出版をきっかけに、写真の撮り方、文化財の撮り方を教えてほしいという講師依頼が来るようになって活動の幅が広がりそうです。本の形で残るというのは、誰かが手に取り、私の思いを感じてくださるから繋がるのだと思っています。写真展には県の文化芸術局の局長がお見えになり、県知事にも写真集を渡していただいたそうです。そして出版のひとつの目的でもあった、香川県の市・町の図書館にも寄贈することができました。

私はこれまで二科の本展には香川の写真を中心に出品してきました。県内には魅力あるスポットがたくさんあります。これからも香川の作品で、香川の良さを伝えられたらと思っています。

出版記念写真展を開催

「5月24日（水）～28日（日）まで、香川県文化会館2階の県民ギャラリーで出版記念写真展を開催しました。全紙91点を展示しましたが、写真集とは違った迫力と臨場感ある写真を来場者の皆様に見ていただくことができました」（森川）

森川輝男写真集
『讃岐路 瀬戸内の太陽に恵まれて』

［仕様］
A4横・上製本
オールカラー
104ページ
［定価］
3,700円（税込）

問合せ：日本写真企画　TEL. 03-3551-2643

森川輝男（もりかわ・てるお）

1947年、香川県国分寺町生まれ（現・高松市）。68年、日本写真専門学校卒業。70年、森川写真工房設立。個展多数開催。89年、写真集『塩飽本島「人名海域の今」』出版。二科会写真部香川支部長ほか。

支部活動

長野・新潟支部で撮影会開催

写真ファンを増やす支部活動が活発化

２０２０年から起こったコロナ禍により個人の撮影にはじまり、二科会写真部での活動もストップ。さらには何波にもよる感染者の増加により、寂しい思いをすることばかりでしたが、今年5月には、5類感染症へ移行となり、多くの制限が解かれ、写真活動も本格的に再開されてきました。

そんな中、長野支部と新潟支部からは撮影会の情報が寄せられました（詳細は巻末の情報ページへ）。長野支部は、支部創立40周年を記念して支部員以外の写真愛好家を交えた企画で、諏訪市にある国指定重要文化財・片倉館を舞台に東京のモデルを呼んでの撮影会。レトロな洋館を背景に久々の撮影会とあって、多くの人が集まりそうです。

また新潟支部は、近年積極的に活動をしており、3月には酒蔵を舞台に佐渡相川「宵の舞」と越中おわら「風の盆」による撮影会を開催し好評でした。今度は、海岸で馬とモデルの撮影会ということで、これまた珍しい写真が撮れそうで注目のイベントとなるでしょう。

二科の各支部では、勉強会をやってほしいという声が多数上がっているようで、プリンター技術の向上を目指すセミナーを企画している支部もあり、今後は支部の活動が活発になりそうです。コロナによって出かけるのが億劫になっている人もいると思いますが、やはり仲間がいると楽しく写真を続けられるもの。それぞれの支部が工夫を凝らしたイベントを行っているので、写真ファンの拡大、二科の支部員増加に繋がるはずです。

「心身ともにフレッシュになってほしい」
細川伸吉（撮影会担当）

今年、長野支部は創立40周年を迎えます。それを記念しての大撮影会を7月30日に諏訪市の片倉館周辺で行います。ここ数年、コロナ禍等で行動が制限され、悶々とした日々を過ごしてきましたので、一流モデルを思う存分に撮影する今回の企画が、心身ともにフレッシュな作品づくりの一助になればとの思いでいっぱいです。

3月に行われた新潟支部主催による撮影会の様子。珍しいシチュエーションだっただけにシャッターを切る回数も増えたようです。

支部展や公募展、または撮影会やイベント、セミナーなどを開催予定の支部は、ぜひ本部まで情報をお寄せください。ホームページや『REAL』でも掲載していきます。

全国の写真仲間 大集合 あなたにとっての二科とは？

二科展へ応募するために作品づくりを続けている
全国の写真仲間に話を聞きました。8人いれば、
皆さん違った二科への関わり方があることを実感できます。
共感できることも多いのではないでしょうか。

国立新美術館で大いなる刺激をもらえる

野崎修司
（福島支部）

退職後に時間の使い方をどうしようか考えたとき、高校時代からカメラに興味をもち、近所の写真屋でグループを作ったり、教員時代は子どもの記録をしてきたこともあり、写真を本格的にやろうと思いました。二科の元会員だった方と関わりがあり、東北二科展と本展に応募するようになりました。現在の目標は、本展で入選して国立新美術館に飾られることです。1回でもいいので味わってみたいと応募しています。

その目標を達成するために、二科の展示は東京まで行って勉強するようにしています。もちろん作品集もありますが、大きく引き伸ばされた写真を実際に見ることで作品の内容からプリントに至るまで学ぶところが多いからです。朝一番に入って、12時を過ぎると、刺激が強すぎて頭が痛くなるほどですが（笑）。素敵な作品群に、「自分ではまだ早いかな……」と思うこともありますが、初入選を目指して撮り続けたいですね。

毎年入選することを目指しています！

穂苅 環
（新潟支部）

写真をはじめるきっかけは、料理を作ってブログに載せるためにデジカメを買ったことでした。あるとき前新潟支部長にお会いし、新潟支部への入会を勧められました。入会後、仲間4～5人で秋田と青森へ祭りの撮影に行き、二科の本展へ応募したところ2年連続で入選。簡単だと思ったわけではないのですが、二科のこともあまり知らず、作品づくりもそれほど意識したことがなく……その後はしばらく落選が続きました。

このところ連続で入選できましたが、やはり傾向と対策を練ることは大事だと思います。自分の好きな写真だけではなかなか二科には入選しません。だから時間さえあれば二科の作品集を見て、どんな作品が求められるか考えています。またレタッチも好きなので過去の写真を引っ張り出し、工夫しながら作品づくりをしていますが、それもまた楽しい時間です。欲が出てきたので毎年入選を目指します！

オリジナリティーが大事だと気付いた

矢作俊郎
（東京支部）

昨年の9月、国立新美術館の建物を撮りに行きました。二科展もやっていたので写真部の展示を見ようと会場に入ったら飾られていた作品の量と質に圧倒されたんです。その時に自分の写真もここに飾られたらいいなと思いました。そこで、どうしたらよいかと東京支部に問い合わせをしたところ、丁寧な対応で受け入れてくれて、11月から支部に入りました。

それまでの私は退職後、旅行が好きだったので全国の有名なスポットを巡って風景や星景写真を撮っていました。支部の例会にその写真を持っていくと、自分の作品ではコンテストには通用しないと実感したんです。それでも皆さんから技術だけでなく現場での声掛けなども含めていろいろと学ぶことができ、作品づくりを意識するようになりました。いまでは有名スポットに頼らず、オリジナリティーを求めて撮るようにしています。二科に入って写真への取り組み方が変わりました。

アートフォトで写真がより楽しくなった

鈴木悦三
（愛知支部）

50年以上写真をやっていますが、フィルムからデジタルになったときにソフトを使って創作することができると知りました。自分でもやってみたいと85歳になって、ゼロからパソコンを勉強し、徐々にできるようになってきました。5年ほど前からアートフォト部門に応募していて、おかげさまで入選が続いております。

商社マンだった時代、アメリカに20年近くいて、日本は写真を楽しみでやるけど、アメリカは売るのを目的にすることを学びました。アメリカのプロからも撮るのは自分の哲学、売るのは心理学、つまりはお客さんのことを考えないといけません。その考えが今の作品づくりにも生きていて、アートフォトで創作するにも、独りよがりではなく、どういう気持ちで見てもらえるかを意識し、「ちょっとおしゃれに、癒やしとファンタジーを求めて」をモットーに、95歳になりましたが二科への応募を楽しみに作品づくりをしています。

会友になることを目標に頑張る

壷井則行
（京都支部）

10数年ほど前、写真をやっていて自分の力がどういう位置にあるのか知るためにも大きなコンテストや公募展に応募して入選を目指したいと思っていました。そして二科会写真部展には、歴史もあり、規模も大きく、ぜひチャレンジしたいという気持ちで応募。1回目は、7～8点応募したでしょうか。応募数などを見てもハードルが高いと感じていたため、自信はありませんでしたが、初応募で初入選できてうれしかったですね。その後は、1～2年空いて入選するという感じだったので、過去の会員や会友の作品を見て、どうしたら入選レベルになるか勉強しました。

いまの目標は、会友になることです。長年続けてきた結果として会友になれたとすると自信にもなると思うからです。どんなことでも目標があると頑張れます。会友になれたら会員、と次のステップを目指すことで写真を長く続けられると思っています。

入選を重ねることで作品の幅が広がった

奥林奈津子
（広島支部）

二科へ応募するようになったのは、広島での二科の展示を見たときに、レベルが高くて、自分も撮ってみたいと思ったのがきっかけでした。それまでは子どもの写真が多かったのですが、心象風景も撮りたいと感じました。初応募は落選、初入選もまだ自分自身の写真って何なのかわからないうちでしたが、入選を重ねるごとに撮った写真を自分でレタッチして、思いを込められるようになり、喜びが何倍にもなってきました。

二科にチャレンジしたことで、写真への取り組み方が変わりました。以前は子どもの笑顔ばかりでしたが、祭りに行っても裏側や影などにも視線が向き、作品の幅が広がったように思います。また写真生活も変わりました。雲の上の存在だった会友の方と仲良くしてもらい、声をかけてもらうようになりました。いろんなアドバイスや日常の話などができて、人とのつながりも広がり、楽しく写真をやっています。

二科を中心とした作品づくりをしている

久保朋也
（徳島支部）

15年程前に、カルチャーセンターの写真教室に入って作品づくりを意識するようになり、先生の勧めで県展などに応募していました。あるとき撮影旅行に行った際の写真をすべて先生に見てもらったら、「これだけ撮れているなら二科に応募してみないか」と言われました。二科なんて考えもしなかったのですが、初応募は見事に落選。でも翌年からは入選を続けることができています。

仕事をしているので休みの日や撮影会に行くときしか撮る機会はないのですが、先生に「2回目はないよ、チャンスはその時だけ」と言われているので、作品になるものを1枚でも撮ろうと集中しているつもりです。いまは会友になることが目標で、二科を中心とした作品づくりを楽しんでいます。年末年始になるとどの作品を応募しようか悩みます。しかもデジタルカメラですから枚数も多いし……。自分が納得する作品づくりをこれからも心がけていきたいと思っています。

今は亡き師匠の言葉が支えになっている

滝沢克彦
（長崎支部）

二科へ応募するようになったのは20年ほど前になりますが、私の師匠である福岡の中山陽先生に長崎支部への入会を勧められ、二科で活動するようになりました。先生は、「僕は林忠彦先生から教わったことを伝えるだけだから」とおっしゃっていましたが、写真になると本当に厳しく、中身のある作品にするためには、風景でもスナップでもドラマ性が写真に込められていないとダメだと言われ続けてきました。どこを切り取るか、色調は、構図は、シャッターチャンスは、と今でも教えられた言葉を思い出して撮影しています。

撮る被写体は風景からスナップ、スポーツまでいろいろですが、ワクワクして撮ることが大事だと思っています。その気持ちは写真にも現れるからです。中山先生には一度も褒めてもらえることなく亡くなられましたが、いつか先生に褒めてもらえる一枚ができることを願って作品づくりを続けていきます。

支部情報

【長野支部】

創立40周年記念モデル大撮影会

日　時：7月30日（日）
場　所：片倉館
（諏訪市・国指定重要文化財）
時　間：9時30分受付▼10時撮影開始▼15時30分閉会式
モデル：太田麻美、詩瑶（アイズ所属）、Nozography（アーティスト）
参加費：一般6千円、支部員3千円
申込先☎090・2168・2349（細川）

モデル：太田麻美

【新潟支部】

二科会新潟支部撮影会

浴衣モデル、夕日バックに砂浜で馬と騎手、早朝に鷺を撮影予定。夜の懇親会では作品添削（2L～四つ切5枚持参）もあり。
募　集：30名
集　合：8月26日（土）11時新潟駅南口バス乗り場
解　散：8月27日（日）9時30分
※1泊2日三食付き・バス移動
宿　泊：海華亭かわい
参加費：1名＝2万4千円
申込先☎090・3145・6648（金子）

支部展情報

1 会期　2 会場　3 開館時間

【鳥取支部】

展示1
1 7月7日（金）～11日（火）
2 米子市美術館
3 10時～18時

展示2
1 7月20日（木）～24日（月）
2 鳥取市中電ふれあいホール
3 10時～17時

【和歌山支部】

1 7月15日（土）～20日（木）
2 ギャラリー花畑
3 10時～17時（最終日15時まで）

【福井支部】

1 7月20日（木）～23日（日）
2 鯖江市文化の館
3 9時30分～17時（初日13時から）

【栃木支部】

1 7月21日（金）～23日（日）
2 宇都宮市文化会館 第1展示室
3 10時～17時（初日13時から、最終日16時まで）

【高知支部】

1 8月8日（火）～13日（日）
2 高知市文化プラザかるぽーと7階第4展示室
3 10時～17時（最終日16時まで）

【北海道支部】

1 9月20日（水）～25日（月）
2 旭川市民ギャラリー
3 10時～17時30分（最終日15時まで）

【長野支部】

展示1
1 10月24日（火）～29日（日）
2 長野市ホクト文化ホール（長野県民文化会館）展示室（ギャラリー）
3 9～18時（初日12時から、最終日15時まで）

展示2
1 11月1日（水）～5日（日）
2 茅野市民館・市民ギャラリー
3 9～18時（初日12時から、最終日16時30分まで）

【神奈川支部】

1 10月25日（水）～30日（月）
2 みなとみらいギャラリーA・B・C
3 11時～17時（最終日15時まで）

【山口支部】

1 12月14日（木）～17日（日）
2 光市文化センター
公開審査　10月22日（日）光市島田コミュニティーセンター

【東北】

第47回東北地区公募展

1 11月23日（祝）～26日（日）
2 とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）
3 9時30分～17時（最終日15時まで）

支部公募展情報

第55回神奈川支部公募展

資　格：神奈川県在勤、在住、県内の写真クラブに所属
テーマ：自由
サイズ：A4～四つ切
応募料：一般2千円（1枚）
審査員：林義勝ほか
賞　：神奈川支部大賞（1点）10万円／神奈川県知事賞（1点）5万円ほか
応募期間：6月26日（月）～7月25日（火）
送り先：〒248-0002 鎌倉市二階堂595-8 高橋康資方二科会写真部神奈川支部 公募展
問合せ☎0467・23・1842

第47回東北地区公募展

資　格：東北6県在住者および出身者
テーマ：自由
サイズ：白黒、カラーとも四つ切／デジタルプリントはA4可
応募料：支部員は5枚まで3千円／一般は3枚まで3千円（ともに1枚増すごとに5百円加算）
賞　：東北地区大賞（1点）10万円／支部長賞（6点）1万円ほか
応募期間：8月17日（木）～9月15日（金）
送り先：東北各県支部
問合せ☎024・559・2478

Information　近藤誠宏前理事長

「地域文化功労者」表彰記念展

近藤誠宏前理事長が「地域文化功労者」の表彰を記念して写真展「京洛・曼荼羅の風」を開催します。43年前に『京都点々累々』を出版して以来、年に1～2回京都に通い個展・グループ展で作品を発表してきましたが、今回の受賞を記念し、「京都・曼荼羅の風」をモノクロ・無光沢・A4サイズで発表します。

【日程】10月20日(金)～22日(日)　【場所】岐阜市文化センター3F展示室

第107回 二科美術展覧会 巡回展

東海展	2023年10月3日～10月9日	愛知県美術館ギャラリー
金沢展	2023年11月9日～11月19日	金沢21世紀美術館ギャラリー
京都展	2023年11月21日～11月26日	京都市京セラ美術館
大阪展	2023年11月28日～12月10日	尼崎市総合文化センター
広島展	2024年1月23日～1月28日	広島県立美術館県民ギャラリー
鹿児島展	2024年3月3日～3月10日	鹿児島県歴史・美術センター黎明館
福岡展	2024年3月19日～3月24日	福岡市美術館

名誉会員・会員・会友の逝去者

黒杭昭夫会友（広島支部）2月20日逝去
島谷義明会員（広島支部）3月18日逝去
平松正大会友（和歌山支部）3月31日逝去
児玉辨二会員（広島支部）4月24日逝去
太田信子会員（岩手支部）5月3日逝去

一般社団法人
二科会写真部 広報誌『REAL』Vol.31
発行日　2023年6月30日
編　集　二科会写真部会報編集室
発行所　〒106-0031 東京都港区西麻布1-4-20
ワルトハイム西麻布601
TEL. 03-3470-8033
FAX. 03-3470-8034

表紙
「流水のアート」
市川喜久雄

二科のことがわかる一冊
『一般社団法人 二科会写真部70年史』
写真部創立70年を記念し、過去の二科賞をはじめ、多くの座談会や、全国の支部から寄せられた写真と文章で綴る保存版。二科の歴史から将来までを楽しめます。定価8,000円（税・送料込み）で購入は事務局まで。